

令和5年度第1回津島市スポーツ推進審議会議事録

日時 令和6年1月30日（火）

午前10時～午前11時

場所 津島市役所2階会議室

出席者 審議会委員 鈴木一成会長、垣見信夫副会長、鈴木健嗣委員、
大鹿泰当委員、久堀好理委員、黒部美津子委員、
城道子委員、伊藤武司委員

事務局 浅井教育長、事務局職員等

1 あいさつ（浅井教育長）

津島市ではスポーツ基本法に基づき、スポーツが楽しくなる環境の充実、スポーツによる地域活性化を目指し、令和5、6年度にスポーツ推進計画を策定することとなりました。

津島市のスポーツの未来のため、子どもたちのためにご審議をお願いいたします。

2 会長及び副会長の選出

津島市スポーツ推進審議会設置条例に基づき会長及び副会長を委員の互選により、会長に鈴木一成様、副会長に垣見信夫様に決定。

（鈴木会長あいさつ）

愛知教育大学で教鞭を執っており専門は学校体育や健康・スポーツ、特に教科としての体育を研究している。学校教育側の視点からも議論したい。

3 議題

(1) 津島市スポーツ推進計画の策定について

資料1「津島市スポーツ推進計画（仮称）の策定について」に基づき説明。

会 長 津島市の推進計画については、国のスポーツ基本計画を踏まえたものとすることや、関連計画である都市計画マスタープランでは東の玄関口や東公園をレクリエーション・スポーツ拠点・防災拠点として位置づけられており、これらを踏まえていく必要がある。

委 員 スポーツ施設の観点から総合体育館の建設が必要。1箇所で開催

催したくとも場所がない状況である。

事務局 総合体育館については計画の柱となる「する」「みる」スポーツのなかで位置づけができる。総合体育館についてのニーズや課題に対する意見を頂けると、計画に反映できる。

委員 東公園の総合プールについて、修繕の状況はいかがか。

事務局 室内外ともに整備ができていない。市全体、学校のプール施設について、市民ニーズや学校におけるプール活動を検討したうえで位置づけを考えていきたい。

委員 室内プールの復活は、皆望んでいる。主婦層でもプールを利用したいという声を聞く。現在は市外の施設に通わなければならない、子育て世代の健康づくり、ダイエットには隙間時間で運動できる環境は非常に大切である。

事務局 スポーツ競技の視点だけではなく、スポーツに親しむ事や市民の健康の視点から意見を頂けて有難い。

委員 スポーツ協会やスポーツ推進委員の実施内容や年間スケジュールについて、市民に伝わっていないのではないか。子どもが陸上大会に参加したが、参加者が非常に少ない印象であった。他の種目は盛り上がっているのか、もっとスポーツイベントや大会情報の広報など、情報発信することが必要と感じた。

事務局 スポーツ施設などのハード面の施策のみならず、ソフト面での意見は参考としていく。

委員 上位計画を踏まえて市の計画をつくるということで了解した。今後、東公園一体整備計画に落とし込んでいくためにも、スポーツ推進計画に施設整備を盛り込んでいくことが必要である。東公園一帯で総合体育館やプールを整備し、子供たちがスポーツに親しみ、歓声が聞けることを期待する。

委員 体育館がないため平日、利用できるところがなく、市外で実施している。金額的にも負担となるため、何回も実施することができない。

大きな大会を津島市で実施したいが、会場がなくてできないという事情がある。

特に働き盛り世代がスポーツをする余裕がなく、スポーツをする人が増えていないことも問題である。

スポーツを盛んにするためには、スポーツをする人を増やしていかななくてはならない。

事務局 国においてはスポーツ実施率の向上を掲げている。学校施設の利用においては、学校開放事業のなかで、やっているため、限界がある。大会だけではなく、平日の昼間など日常的な練習の場も含めて、スポーツ環境を整えることが重要である。

委員 スポーツ少年団の指導者はスポーツ協会とは資格が別であったが、資格をまとめる動きがあり、4年に1度は指導者研修を受けないと監督やコーチがグラウンドに入れられないなど厳しい規制である。

サッカー・野球などは、1つの学校で1チームできないため、他の学校と合併して実施している状況である。子どもがいない上に、指導者は研修を受ける時間や費用の負担がかかる等の課題がある。

少年野球とサッカーは東公園が中心となって実施しているが、サッカーゴールなどの備品がなく、備品の管理もままならない状況であった。このため、指定管理者と協議しながら、備品や芝の養生に関するルールなどを整えていった。東公園の整備を進めるのであれば、利用上の議論についても深めていかななくてはならない。

委員 「なわとび教室」を企画しているが、今年度は非常にレベルアップしていることを感じた。小学校での元なわとびのチャンピオンが来校し、なわとびを教える機会があったとのこと。

このような機会を通じて、小中学生の小さい頃から、スポーツに親しむことは非常に大切だと思う。

みるスポーツの視点では、過去に市営球場で高校野球の甲子園予選をやっていたが、現在は実施されていない。伝統ある野球場をもっと盛り上げていきたい。

小学校のプールのシャワーは温水ではないため、基準に対応できない状況となっている。子どもたちが水に親しむためには、先ず環境を整えることが重要である。

委員 スポーツに楽しむ際に、安全安心な環境を整えてほしい。

総合体育館を整備する際には観客席を併設してほしい。はじめてみる人、興味を持ってもらうためには、みる環境が重要である。テレビを通してではなく、直接みることは感動を与え、スポーツに対する意識も変わる。

事務局 スポーツ環境の安全対策や熱中症対策などをしていかななくてはならない。計画のなかで具体的な対策を検討していく。

委員 体育の授業を先生一人でみるのは大変で、経験がある保護者へ見守りを依頼されたことがある。蟹江町では民間スポーツクラブの指導者を体育の授業に取り入れていると聞いた。体育の授業で見守りが多いと先生の負担を減らせるし、子ども達も体育の楽しさを知り、のびのびと運動ができることにつながる。

事務局 学校の働き方改革を踏まえ、令和7年度末目標に部活動の地域移行という話があがっている。部活動や体育の授業のなかで、民間の指導者を入れるといったことも今後、検討していきたい。

会長 異常気象や施設の老朽化などを背景に、各学校でプール活動が滞りなく実施されているとは思えないが、実際の所はいかがか。

委員 2年前、新型コロナウイルスの影響によりプール活動を休止した。やっと昨年度から授業時間を従前よりも減らして再開した。2年間実施していなかったことにより、子どもたちの泳力の衰えを感じる。安全対策として教員を複数配置して実施している。

会長 学校施設の老朽化が進んでおり、市内全校の施設を改修するとなると費用負担が大きい。他市町村では既存の市民プールを利用している。特に温水プールであれば年間通じて実施できるため、授業時間を確保し、体育の学力が保証できる。そういった地域の施設を充実させることが学校の利用にもつながる。また、津島の地域特性として木曾川が近い地域であるため、川のスポーツや川沿いでの休日のセカンドライフ、野外活動に活用できると、学校でも近場での野外活動を充実させることができる。
学校の部活動が地域にかえってくることや、将来の人口減少や都市構造が変わっていくなかでの本市のスポーツのあり方について、引き続き、議論していきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局 資料2「今後のスケジュールについて」に基づき説明。

(3) その他

事務局 その他の議題については特になし。

会 長 本日の審議会の内容を踏まえ、津島市スポーツ推進計画の今後の策定を進めていただきたい。以上で本日の議題に関する審議を終了する。

4 その他

- ・資料3「スポーツに関するアンケート調査について」に基づき事務局説明
- ・次回開催日 令和6年5月13日（月）午前10時からを予定。